

	一般的名称	報告の概要
533	酢酸メドロキシprogesteron	エストラジオールとprogesteron処理をした接着細胞上に単球細胞を一定の流速で流したところ、エストラジオール単独処理の場合と比較して接着亢進が見られた。
534	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者197例を対象とした無作為化試験において、3例が死亡した。
535	アセトアミノフェン	ワルファリンを投与されている患者において、アセトアミノフェンの併用により出血リスクの上昇が示唆された。
536	シメチジン	ヒスタミンH2受容体拮抗薬を連続使用しているアフリカ系アメリカ人の高齢者において、認知機能障害の発症リスクが高まることが示唆された。
537	ピロキシカム	メタアナリシスにより、ピロキシカムは他のNSAIDsと比較して胃腸系リスクが高まることが示唆された。
538	シクロスポリン	ヒト結腸がん由来細胞株Caco-2細胞を用いてシクロスポリンとプラバスタチンの相互作用を検討したところ、プラバスタチンがMRP2を介してシクロスポリンの排出を抑制したことが示唆された。
539	メロニダゾール	基礎肝疾患を持つ4例を対象としたレトロスペクティブ研究において、肝機能障害のある患者では低用量で脳症やニューロパシーを誘発することが示唆された。
540	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤の使用により、Clostridium difficile関連下痢症の発症頻度が高まることが示唆された。
541	レボホリナートカルシウム	未治療の転移性結腸直腸癌患者38例を対象とした無作為化試験において、modified FOLFOX7/ペバシズマブ群で1例が穿孔で死亡し、modified XELOX/ペバシズマブ/erlotinib群で下痢で1例が死亡した。
542	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤の使用により、Clostridium difficile関連下痢症の発症頻度が高まることが示唆された。
543	レボホリナートカルシウム	転移性胃癌患者52例を対象としたcetuximab/オキサリプラチン/フルオロウラシル/アイソボリンの第Ⅱ相試験において、過敏症反応、敗血症性下痢でそれぞれ1例が死亡した。
544	アミノ安息香酸エチル	経食道心エコー検査(TEE)などの内視鏡手術時におけるアミノ安息香酸エチルを使用した患者において、メヘモグロビン血症の発現が高まることが示唆された。
545	硫酸マグネシウム・ブドウ糖	妊婦4名への硫酸マグネシウム投与により、出生した児で高マグネシウム血症、低カルシウム血症が起きた。
546	ジクロフェナクナトリウム	脊椎固定術後のジクロフェナクの使用により、使用量の増加と骨癒合不全・骨癒合遅延の間で相関関係が見られた。
547	塩酸ラニチジン	ヒスタミンH2受容体拮抗薬を連続使用しているアフリカ系アメリカ人の高齢者において、認知機能障害の発症リスクが高まることが示唆された。
548	テガフル・ウラシル	70歳以上の結腸直腸癌患者175例を対象として、術後補助化学療法群95例と緩和的ファーストライン化学療法群80例への質問票による調査において、後群で1例が死亡した。